

E.F 看護師

宗像看護専門学校

看護学科卒

専門学校を卒業して半年が経ち、メディカルセンターで看護師として働いている。専門学校に入学する前は理想と夢を胸に抱いていたが、3年間で数多くの分野の座学、実習を行い現実を知り、挫折しそうな日々を過ごしていた。実際に看護師となり働き学生とは違う視点をできることが増え、やりがいと、厳しさと命の重さを痛感するようになった。

元々看護師になりたいと思うようになったきっかけは父であった。だが現在は目の前にいる患者様に、どのようなケアや声掛けを行うことが、その人らしさを保ちつつ入院生活を送ることができるのかなど、対象者が父から目の前の患者様に代わっているのだと感じた。学生時代は友人に悩みを相談したり、自分なりにストレスの対処方法を考えて実践してきた。そのことが現在にもつながり、学生時代に習得したものが生かされている。

入職し3か月あたりで自分自身の仕事のできなさや、感情のコントロールが行えない時期があった。しかし、そのような状態の際に、職場の同期や学生時代の友人や浦上養育院の職員、上司に支えられ、何とか乗り越えることができた。未だに仕事に慣れず毎日ミスをして落ち込んでしまう時もあるが、それをどう今後に生かしていけるか、次はこうしようなど考えることが、楽しいと感じるようになった。

辛いと感じていた学生生活は今となっては人生の財産となっている。一度苦しみを乗り越えると、乗り越え方を学び成長していくのだと感じることができた。仕事だけではなく家族との向き合い方も考え直すことができ、今まで自分がどのような対応を行ってきたのかを振り返り、行動や言動を見つめなおすことで現在は定期的に会い、面と向かって会話することができるになった。学生時代の3年間は子供と大人の狭間で自分で自分のことが分からない時期であった。しかし現在は、社会人として今までとは違う思考などが行えるようになり成長を感じれるようになった。

学生時代の3年間は周りに感謝することが多かった。そのことが人生の糧になっている。これからは支えられるだけでなく、しっかりと自立し支える側になれるように、看護師としての経験と友人や家族、お世話になった方々に様々な形で恩返しをしていきたい。